

—— 基調講演 — 持続可能で幸せなまちをつくる ——

1



大学院大学至善館 教授  
有限会社イズ代表取締役  
幸せ経済研究所 所長  
枝廣 淳子 氏

東京大学大学院教育心理学専攻修士課程修了。『不都合な真実』（アル・ゴア氏著）の翻訳をはじめ、環境・エネルギー問題に関する講演、執筆、企業のCSRコンサルティングや異業種勉強会等の活動を通じて、地球環境の現状や国内外の動きを発信。持続可能な未来に向けて新しい経済や社会のあり方、幸福度、レジリエンス（しなやかな強さ）を高めるための考え方や事例を研究。「伝えること」で変化を創り、「つながり」と「対話」でしなやかに強く、幸せな未来の共創をめざす。教育機関で次世代の育成に力を注ぐとともに、島根県隠岐諸島の海士町や熊本県の南小国町、北海道の下川町等、意志ある未来を描く地方創生と地元経済を創りなおすプロジェクトにアドバイザーとしてかかわっている。主な著書に『地元経済を創りなおすー分析・診断・対策』ほか多数。

—— 海外の先進事例 ——

More than just saving snow, How Mountain Community can lead and solve the climate crisis.

ただ雪を守るだけでは終わらない、気候危機に対するマウンテンコミュニティの役割とは。  
(※通訳あり)

2



アメリカ合衆国ユタ州パークシティ  
環境サステナビリティ部門  
マネージャー  
ルーク・カーティン 氏

コロラド州ベイルで15年間スキー場の持続可能性を高める取り組みに尽力した後、パークシティに移住し、2022年までにカーボンニュートラル・再生可能エネルギー利用率100%を目指す環境部門を統括。既に公共交通機関の電気化、再生可能エネルギーや環境再生型農業の推進、州法の改正、化石燃料エネルギーの消費量がゼロとなる省エネビル建設促進など、様々な施策が進んでいるパークシティは、環境問題解決に関して北米の中で最も先進的な自治体であり、世界的に見ても非常に野心的な自治体の一つである。活動実績は、ニューヨーク・タイムズやBBC、アウトサイドマガジン、ニューズウィークなど、数々の国際的なメディアで報道されている。現在は、パークシティの郊外で妻と3人の子供とたくさんの動物と共に暮らす。

—— パネルディスカッション — 白馬の豊かな未来の創り方 ——

パネリスト

3



和田 寛 氏  
(白馬観光開発株式会社)  
大学卒業後、農林水産省に入省。その後外資系戦略コンサルティングファームを経て、圧倒的な山岳景観に惹かれ、2014年に白馬観光開発に入社、2017年に代表取締役社長に就任。



小松 吾郎 氏  
(Protect Our Winters Japan)  
北海道ニセコ生まれ。世界各国の雪山を滑り、HAKUBAVALLEYを定住の地に選択。もっと平和で、もっと楽しい、もっと優しい、もっと寒い地球を目指してPOWJを設立。



藤川 まゆみ 氏  
(NPO 法人上田市民エネルギー)  
長野県で「相乗りくん」市民発電所PJを展開。みんなで作るエネルギーで世界を変えようと活動中。2018年に環境大臣賞受賞。自然エネルギー信州ネット会員。



モデレーター  
枝廣 淳子 氏



(気象庁「過去の気象データ」)

白馬村は、この30年間で、平均気温が約1℃上昇し、年間降雪量が約100cm減少している傾向にあります。地域の未来に降り積もる雪と豊かな暮らしを守るために、今を生きる私たちが取るべき行動は・・・？

